

12月 はせやまの風

舞鶴市立新舞鶴小学校だより

令和4年 11月 30日発行

白糸中学校区「目指す子ども像」
自ら学ぶ子・人とつながる子
心も体も鍛える子・ふるさとを愛する子

HP:shinmaizuru-maizuru.edumap.jp



幸せな気持ちで温かく



紅葉が色づくころに日光によく当たるときれいな赤い葉になるのだとか。11月は、青空の広がる日も多く、学校の桜の葉がとてもきれいに色づきました。毎朝、気になる落ち葉を見つけては拾い、校長室前の窓に貼っていたところ、足を止める子どもたちが少しずつ増えました。1枚として同じ表情の葉はありません。真っ赤なものもあれば、少し黄色がかったもの、虫に食われて穴が開いたものも。どれも素敵な1枚です。子どもたちも一人として同じ人はいません。それぞれにとっても素敵なお宝があります。みんな違ってみんないい、そう思いながら貼っていた毎日でした。

11月15日から人権旬間の取り組みをしています。いじめ防止対策強化月間の取り組みと合わせて、一人一人の子どもたちと担任が面談をしたり、人権学習や各学級の人権宣言の発表をしたりして、人権について考え、自分も周りの人も大切にしようとして取り組んでいます。

11月24日の人権集会では、『にじいろのはな』の読み聞かせをしました。

まだ雪が残る野原に、虹色の花が咲きました。虹色の花は、やっとお日様に会えて、うれしくてたまりません。この幸せな気持ちを、みんなにも分けてあげたいと思いました。・・・



困っているアリやトカゲたちに自分の花びらが役に立つかもしれない、と次々に花びらを渡す虹色の花の物語です。読み聞かせの後、こんな話をしました。

虹色の花がやっとお日様に会えてうれしくなったように、わたしたちは、自分の願いや望みが満足する形になると幸せな気持ちになります。そして、その喜びや幸せは、自分一人で味わうより、他の人たちといっしょに分ち合うことで、いっそう大きくなるものです。・・・

そして、九九を覚えて「九九マスター」になった2年生の子どもたちが、友達の練習に付き合ったり、恥ずかしがりやの友達が九九テストを聞いてもらえるように先生を見つけ、一緒に行ったりして、友達が合格するのを自分のことのように喜ぶ思いやりの感じられる様子を紹介しました。11月は、低学年の「はせやま秋まつり」、なかよし班の「手作り遊び」など、異学年での活動で思いやりを感じる姿をたくさん見ました。心が温かくなります。



自分の好きなこと、がんばれることを見つけて自分なりにがんばると自己肯定感が高まります。それが「幸せな気持ち」になり、周りの人にも温かく接する気持ちが生まれます。温かい空気で包み込まれる環境を作っていきたいと思います。人は十人十色。お互いに相手を思いやるやさしさを持ちたいと思います。相手の人権、心や体を傷つけることは許しません。一人一人が素敵な存在です。大切に育てていきます。保護者の皆様、地域の皆様にも、変わらず子どもたちを温かく包み込んでいただきますようお願いいたします。

2学期もあと1か月足らず。それぞれの学級では2学期のまとめに入っています。2学期の学びを振り返る大切な時期です。一方、気温が下がり、体調を崩しがちな時期でもあります。新型コロナウイルス感染状況第8波とも言われています。生活リズムを整え、子どもたちが健康でいられますようお願いいたします。

校長 小森 昌子